

みずほマーケット・トピック(2022年9月16日)

内容 1. 為替相場の動向

2. 来週の注目材料

※誠に恐れ入りますが、「3. 本日のトピック」はお休みさせていただきます。

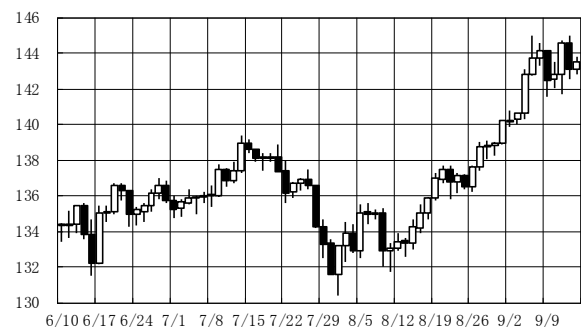
1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

- 今週のドル/円相場は乱高下しながらも方向感のない展開。週初12日、142.60円付近でオープンしたドル/円は株式市場や米金利の動向を見ながら142円台半ばを中心とした揉み合いの展開。東京時間に一時143円台半ばまで上値を伸ばすも、米国時間では再び142円台前半まで反落し、値幅を伴いつつも方向感のない値動きとなった。13日、ドル/円は米金利低下を横目に上値重く推移し、一時週安値の141.61円までじりじりと下落。海外時間では米8月消費者物価指数の市場予想を上回る結果を受け144円台半ばまで急伸、その後も高値圏を維持した。14日、ドル/円は前日海外時間のドル買いの流れが継続し、一時週高値の144.96円をつけたが、本邦政府高官からの円安けん制発言や日銀のレートチェック実施の報道、さらに米金利が弱含んだこと受けじり安に推移し142円台半ばまで下落。その後は143円台前半まで回復した。15日、ドル/円は本邦当局による円安けん制が警戒される中、143円台後半まで値を上げるもその後は上値を追う展開とはならず、143円台半ばまで反落した。本日のドル/円は143円台前半での取引となっている。
- 今週のユーロ/ドル相場は再びパリティ(1ユーロ=1ドル)割れし上値の重い展開が継続。週初12日、1.00台後半でオープンしたユーロ/ドルは欧州株の堅調推移やECBメンバーのタカ派的な発言にユーロ買いが強まり一時週高値の1.0198まで上昇。その後は域内金利低下に1.01台前半まで下落した。13日、ユーロ/ドルは米金利低下を受けドル売り優勢で上値を伸ばす場面もあったが、その後の米経済指標の強い結果にドル買いが加速し0.99台後半まで急落、再びパリティ割れとなった。14日、ユーロ/ドルは前日のドル買いの流れが継続し、シドニー時間に一時週安値の0.9956をつけた。米国時間に一旦は1.00台前半まで回復したがその後の米長期金利の反転上昇に再び0.99台後半まで反落した。15日、ユーロ/ドルは米金利上昇に伴うドル買いに押され前日安値まで値を崩すも、欧州株の堅調推移にユーロ買い優勢となり1.00台を回復。その後も1.00ちょうどを挟んでの揉み合いとなった。本日のユーロ/ドルも1.00付近での取引となっている。

今週のおもな金融市場動向(出所:ブルームバーグ、みずほ銀行)

ドル/円相場の動向

		前週末	今 週				
		9/9(Fri)	9/12(Mon)	9/13(Tue)	9/14(Wed)	9/15(Thu)	
ドル/円	東京9:00	143.87	142.57	142.58	144.43	142.93	
	High	144.10	143.50	144.67	144.96	143.80	
	Low	141.51	142.05	141.61	142.56	142.80	
	NY 17:00	142.65	142.84	144.62	143.18	143.49	
ユーロ/ドル	東京9:00	1.0010	1.0070	1.0129	0.9979	0.9980	
	High	1.0114	1.0198	1.0188	1.0023	1.0018	
	Low	0.9993	1.0060	0.9966	0.9956	0.9956	
	NY 17:00	1.0046	1.0122	0.9968	0.9978	0.9995	
ユーロ/円	東京9:00	144.04	143.61	144.40	144.13	142.66	
	High	144.71	145.63	145.25	144.40	143.62	
	Low	142.71	143.47	144.03	142.33	142.60	
	NY 17:00	143.30	144.57	144.15	142.85	143.43	
日経平均株価		28,214.75	28,542.11	28,614.63	27,818.62	27,875.91	
TOPIX		1,965.53	1,980.22	1,986.57	1,947.46	1,950.43	
NYダウ工業株30種平均		32,151.71	32,381.34	31,104.97	31,135.09	30,961.82	
NASDAQ		12,112.31	12,266.41	11,633.57	11,719.68	11,552.36	
日本10年債		0.25%	0.24%	0.24%	0.25%	0.25%	
米国10年債		3.31%	3.36%	3.41%	3.40%	3.45%	
原油価格(WTI)		86.79	87.78	87.31	88.48	85.10	
金(NY)		1,728.60	1,740.60	1,717.40	1,709.10	1,677.30	



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- 米国では、20日(火)～21日(水)にFOMCが開催される。前回7月会合ではFRBは75bpsの利上げを継続し、FF金利誘導目標は2.25～2.50%となった。依然としてインフレ退治を第一とするFRBの政策指針に変化はなく、その後公表された議事要旨でも追加の金融引き締めが求められるという見解はメンバー間で一致した。一方で、どこかの時点で利上げを減速することが適切であるとし、その時期については議論の余地を残した。ジャクソンホール経済シンポジウムでは世界景気減速懸念が熾り米国のCPIも一時的に鈍化した中でも、パウエルFRB議長は改めてインフレ抑制に注力する姿勢を表明した。市場のコンセンサスも利上げペース後退から7月会合同様の75bpsの利上げで意思形成される状況となった。加えて今週公表された8月CPIの強い結果を受けて100bpsの利上げを見込む声も出ている。今回のFOMCでは利上げ幅が75bpsであれ、100bpsであれ、中立金利を超える水準となることは確実な情勢となっている。また、今回会合後には四半期に1度のドットチャート、経済物価見通し(SEP)の更新がされる。ドットチャートの形状に大きな変更がないものと考えたいが、足許のインフレ動向を踏まえて23年前半のFF金利の最高到達点が4.00～4.50%まで引き上げられる可能性に警戒したい。
- 本邦では21日(水)～22日(木)に日銀金融政策決定会合が開催予定。前回7月会合では大規模緩和の現状維持決定しており、その後の黒田日銀総裁の会見では利上げは全くないと述べ、今後に関しても金融緩和を続ける方針に変わりなく、中長期的な成長を金融面から支えていく姿勢を維持した。9月に入り黒田総裁は岸田首相や鈴木財務相と会談を実施し、市場では為替介入を実施する予想が浮上したが、金融政策がハト派である限りは市場への影響も限定的と見られる。むしろ、今回会合にて仮に利上げなどの引き締めのカードを切ってその効果がなかった場合、日銀は円売りで追加利上げを催促される展開に直面することは大いに想定される。足許の円安進行の一因として日米金利差の拡大が指摘されるが、日銀が米国と同じペースでの利上げを実施するといったことは出来ないと思われ、中途半端な引き締めに転じるならば引き続き状況を静観した方が良くないと判断することは十分に考えられそうだ。

	本 邦	海 外
9月16日(金)	_____	・ユーロ圏8月消費者物価指数(確報) ・米9月米シガン大学消費者マインド(速報)
19日(月)	_____	_____
20日(火)	・8月全国CPI	・ユーロ圏7月経常収支 ・米FOMC(21日まで) ・米8月住宅着工件数
21日(水)	・日銀金融政策決定会合(22日まで)	・米8月中古住宅販売件数 ・米パウエルFRB議長会見
22日(木)	・黒田日銀総裁会見	・ユーロ圏9月消費者信頼感指数(速報)
23日(金)	_____	・ユーロ圏9月製造業/サービス業PMI(速報) ・米9月製造業/サービス業PMI(速報)

【当面の主要行事日程(2022年9月～)】

FOMC(9月20日～21日、11月1～2日、12月13～14日)

日銀金融政策決定会合(9月21～22日、10月27～28日、12月19～20日)

ECB政策理事会(10月27日、12月15日、2月2日)

市場営業部

チーフマーケット・エコノミスト

唐鎌大輔(TEL:03-3242-7065)

daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です

<http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ.html> (Archives) http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ_backnumber.html

発行年月日	過去6か月のタイトル
2022年9月15日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2022年8月分)
	円安抑止としての日本版HIAの可能性
2022年9月13日	鎖国政策終了とその後の課題
2022年9月12日	動き出す家計部門の外貨運用～金融教育の先に～
2022年9月9日	週末版(ECB政策理事会を終えて～スタグフレーションとの闘いに挑むECB～)
2022年9月7日	金利差が本場にテーマになるのはこれから
2022年9月6日	ノルドストリーム1の再開延期とユーロ安
2022年9月5日	円安更新はどこまで続くのか～140円台突破を受けて～
2022年9月2日	週末版(ECB政策理事会プレビュー～50bpか75bpか～)
2022年8月29日	ジャクソンホール経済シンポジウムを受けて
2022年8月26日	週末版(劣化する欧州経済の現状～読めないエネルギー供給とドイツのリセッションリスク～)
2022年8月24日	水際措置の緩和の評価～問題は上限ではない～
2022年8月23日	パリティ割れと欧州のインフレ動向について
2022年8月22日	顕著になる鎖国政策の副作用
2022年8月19日	週末版
2022年8月18日	過去最大を更新し続ける貿易赤字
2022年8月17日	生産者物価指数(PPI)と交易条件と円相場
2022年8月16日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2022年7月分)
	本邦4～6月期GDP～形ばかりの「コロナ前」回復～
2022年8月15日	独経済は不況の淵に～ライン川の水位低下～
2022年8月12日	週末版
2022年8月10日	独ライン川の水位低下とユーロ安リスク
2022年8月9日	2022年上半期の国際収支統計を受けて
2022年8月8日	ECBの再投資柔軟化はどこまで可能なのか？
2022年8月5日	週末版(ドル/円相場の近況をどう考えるか～歴史的な大相場は調整も非常に大きい～)
2022年7月29日	週末版(米4～6月期GDPの読み方～リセッション判断は尚早～)
2022年7月27日	IMF世界経済見通し(7月改定)を受けて
2022年7月25日	ドル/円相場の近況をどう評価するか？
2022年7月22日	週末版(ECB政策理事会を終えて～前門のインフレ、後門のリセッション、TPIという二番煎じ～)
2022年7月20日	ECBは7月+50bp利上げに舵を切るのか
2022年7月19日	パリティ割れの背景整理～歴史に学ぶ教訓～
2022年7月15日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2022年6月分)
	週末版(ユーロ圏景気とユーロ相場の展望～ユーロ安でてこずるインフレ抑制～)
2022年7月14日	米インフレ加速も住宅市況には変調の兆しも
2022年7月12日	やはり顔を出し始めた新規感染者主義
2022年7月11日	リフレ政策の今後～悲報との因果関係はなし～
2022年7月8日	週末版(世論に効き始めた物価上昇圧力～日銀がスケープゴートにされる可能性～)
2022年7月7日	ユーロ相場急落の背景～ECB/ハト派化より重要なこと～
2022年7月5日	やはり反対していたドイツ～緊急政策理事会～
2022年7月4日	世界の外貨準備状況～22年3月末時点～
2022年7月1日	週末版(2年9ぶりのAPP停止と域内債券グルーブ化構想～遂に始まる加盟国の階層化～)
2022年6月28日	家計金融資産は動き出すか～22年3月末の状況～
2022年6月27日	世界は通貨高競争へ～逆・近隣窮乏化策の始まり～
2022年6月24日	週末版(ECB緊急政策理事会の読み方～落ち着かないラガルド流～)
2022年6月22日	「ドル高の裏返し」とは言い切れない円安の近況
2022年6月21日	タカ・ハト両面を演じるECB～難しいナローパス～
2022年6月20日	疑似的な通貨危機の様相を呈する日銀運営
2022年6月17日	週末版(ECB緊急政策理事会の読み方～落ち着かないラガルド流～)
2022年6月16日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2022年5月分)
	FOMCを終えて～円安地合いは固まるばかり～
2022年6月14日	悲惨指数を感じなかった日本人
2022年6月13日	米5月CPIから予見される「円だけマイナス金利」の未来
2022年6月10日	週末版(ECB政策理事会を終えて～利上げ幅拡大も示唆～)
2022年6月9日	黒田発言をどう解釈するか～リフレの終幕と実質GDI～
2022年6月8日	金利が説明力を持ち始めているか～133円台を受けて～
2022年6月7日	要請経済の継続はトリプル安に～参院選と金融市場～
2022年6月6日	ECB政策理事会プレビュー～サプライズがあるとすれば～
2022年6月3日	週末版(旅行収支と円相場の需給～制限ありきではインバウンドの影響なし～)
2022年6月2日	変容しつつあるユーロ圏物価情勢の現状と展望
2022年5月31日	31年連続、「世界最大の対外純資産国」の読み方
2022年5月27日	週末版(ドル/円相場と理論的な尺度について～もはや参考にしづらいPPPからの乖離～)
2022年5月26日	ブログで政策修正を図ったECBの真意～その②～
2022年5月25日	ブログで政策修正を図ったECBの真意
2022年5月20日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2022年4月分)
	週末版(円安相場は終わりののか？～先行きは夏場以降の政治次第～)
2022年5月19日	本邦1～3月期GDPを受けて～「成長を諦めた国」～
2022年5月17日	ECB、「行動の夏」が意味するところ
2022年5月16日	円のREERは変動相場制以前の水準へ
2022年5月13日	週末版
2022年5月12日	米4月CPIと今後の考え方について
2022年5月11日	インバウンド解禁と円安抑制の関係性
2022年5月10日	「資産所得倍増プラン」の危うさ～為替・金利への影響～
2022年5月9日	「中銀の財務健全性」と「通貨の信認」について
2022年5月6日	週末版(FOMCを終えて～「50bps→25bps」のブレイクが重要～)
2022年5月2日	円安を止める3つの処方箋～日銀・原発・インバウンド～
2022年4月28日	週末版
2022年4月27日	ECB、7月利上げ説は本当なのか？
2022年4月25日	円安にまつわるQ&A:よくある疑問の論点整理
2022年4月22日	週末版
2022年4月21日	円の命運はまだ自ら変えられる～需給で円安の修正余地～
2022年4月20日	IMF春季世界経済見通し～戦争が変えるメインシナリオ～
2022年4月19日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2022年3月分)
	表舞台に引きずり出された日銀の現状と展望
2022年4月18日	本当に恐ろしい円安リスクは「家計部門の円売り」
2022年4月15日	週末版(ECB政策理事会を終えて～勝負は6月会合に～)
2022年4月14日	「インフレで苦しむ」を想像できない日本
2022年4月13日	円安を止めるには～日本要因と米国要因～
2022年4月11日	ECB政策理事会プレビュー～レーン理事に同調～
2022年4月8日	週末版(本邦2月国際収支統計を受けて～円安の流れを変えられるかは日本次第～)